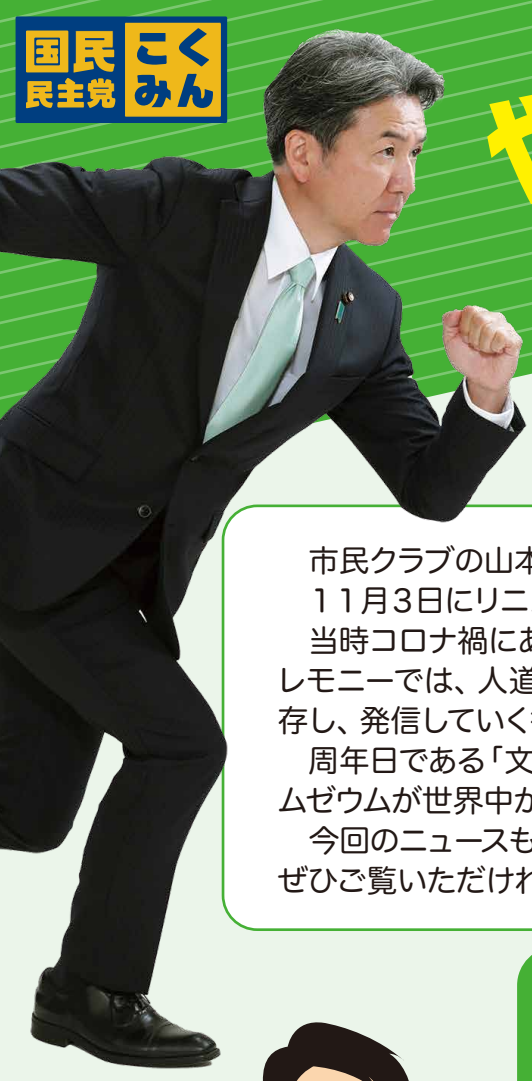
国民民主党 こくみん



やまたけ NEWS

敦賀市議会議員 山本武志 議会報告

まっすぐ誠実に粘り強く

2026.11 第30号

E-mail : yamatake@yamamoto-takeshi.net
TEL : 090-9766-7645

WEB・ブログ / facebook / Instagram / X(旧Twitter) / YouTube / TikTok

市民クラブの山本たけしです。

１１月３日にリニューアルオープンから６年を迎えた「人道の港 敦賀ムゼウム」。

当時コロナ禍にあって、５ヶ国の駐日大使がお越しになり開催されたオープニングセレモニーでは、人道の尊さ、そして敦賀であった世界とつながる人道の港の史実を保存し、発信していく役割の重要さを強く認識したことを思い返すところ。

周年日である「文化の日」の趣旨「自由と平和を愛し、文化をすすめる」とあいまって、ムゼウムが世界中から訪れるシンボリックな場所となることを期待する次第です。

今回のニュースも市議会のトピックスや自身の一般質問を中心にご報告いたします。ぜひご覧いただければ幸いです。





令和８年第４回（９月）定例会が開催されました

９月定例会は、９月７日から３３日間の会期で開催され、令和７年度敦賀市歳入歳出決算認定の件など市長提出議案２３件のほか、議員提出議案１件、報告事項５件、請願２件を審査しました。

なお、私は一般質問にて、①敦賀市長等及び職員のハラスメント防止等に関する条例、②市政施行９０周年の取組、③敦賀市史の再編さんについて意見しました。

提言1 市のハラスメント防止等に関する条例の実効性と懸念事項を問う！

今定例会において「敦賀市長等及び職員のハラスメント防止等に関する条例制定の件」が提案されたことを踏まえ、本市の取り組みに対する実効性と懸念事項について、以下確認しました。

✓専門家意見の反映 これまでの「要綱」運用から条例化するにあたり、弁護士等の専門家から「相談・通報先の分かりやすさ」や「特別職の事案に対応する調査組織の規定」などの助言があり、より実効性の高い制度への見直しが行われた。

✓市の強い決意 “前文” はないものの、**条例の中核となる第３条に「ハラスメントの禁止」を明確に規定しており、市としてハラスメントを許さない姿勢を十分に示している。**

✓無知・無自覚の排除に向けた継続的研修 職員の正しい知識と倫理観の向上を図るため、管理職向けをはじめとする階層別の研修を毎年度順次実施する。

✓相談窓口と調査・対応の仕組み 複数の相談ルート（内部・外部）を確保し、誰でも広く相談できる環境を整備する。

✓市立敦賀病院における対応
市条例に準じた規程を整備し、外部相談窓口の設置など対応体制を構築する。

結びに、**我々規範となるべき立場の者が、人格や尊厳を守り、人権を尊重する姿勢を貫くことが、ハラスメントのない敦賀市、敦賀市役所、そして社会全体につながる**として質疑を締めくくりました。



厚生労働省ＨＰ
職場のハラスメント対策ポスター

提言2 市政施行９０周年の取組を、次の１００周年に向けた未来づくりに！

昭和１２（1937）年の市制施行から来年で９０周年を迎える敦賀市。私はこの節目を決して一過性のイベントで終わらせるのではなく、**次の１００周年に向けたまちの活性化と市民のシビックプライド（愛着や誇り）を醸成する周年にすべきと意見提起**しました。

米澤市長からは認識を共有するとした上で、各提案に対しては総務部長より、市民の一体感や機運醸成に向け、未来の担い手である市内高校生へ協力を依頼し、記念ロゴやキャッチフレーズ、記念映像の制作を進めていることや、１０年後の敦賀をどうしていきたいのかの市民意見を広く募集する「敦賀１００年への未来宣言」の取組提案に対しては、来年度の取組を検討する中で参考としたいとの考えが示されました。

また、愛知県新城市の「若者議会」事例等を参考に、「（仮称）敦賀若者未来創造会議」を設置し、若者が自ら政策形成に携わる仕組みの構築を提案したところ、市長からは、９０周年を機に提案内容も含めた検討を行う姿勢が示されました。

地域づくりは人づくり。多様な世代が主体的に関わり、感謝と誇りを共有できる９０周年、そして次の１００周年へつながる施策の推進を求めてまいります。



発行・編集責任者／山本 武志

提言 3　深遠の地域史をアップデートし、次代につなぐため、「敦賀市史」の再編さんを！

昭和４８年（1973）年の市議会で、当時の矢部市長から計画が表明され、足かけ１５年の歳月を経て昭和６３（1988）年に完結した『敦賀市史』。**まさに敦賀市制史上の一大金字塔ともいえる事業と事績であったと称される市史について、計画から５０年以上が経過している現状を踏まえ、市制施行１００周年の刊行を目指した「敦賀市史再編さん」を提言**しました。

これに対し冒頭、米澤市長からは、人道の港の調査をはじめ、多くの調査研究がまとめられることなく、未整理のまま蓄積されていることや、平成以降の原子力政策の転換、ＪＲ直流化、北陸新幹線延伸など歴史的出来事を加えて新たな市史を取りまとめるということは、非常に意義のあることであるとの考えが示されました。

また、所管する文化交流部長からは、全面刷新か追加作成かなどの手法選定、専門家への協力依頼、専属職員の配置などの課題整理が必要であると説明の上、**他自治体の事例も研究しながら、市制１００周年にあわせた事業実施の可能性を含めて検討を進めていく方針**との答弁がありました。

最後に私から、敦賀の深遠の地域史をアップデートし、次代につなぐことは、現世を預かる行政のトップ、そして政治に携わる者が果たす役割であると訴え、市長の英断を求めた次第です。



わが家に所蔵の「敦賀市史」全巻。
歴史を紐解くバイブルであり。

報告 1　岐路に立つ「敦賀きらめき温泉リラ・ポート」～同施設の指定管理者選定議案に賛成～

自身が議員になって１年目（2019-2020）にあった「敦賀きらめき温泉リラ・ポート」の指定管理を巡る問題は、同施設の営業休止、さらには敦賀市議会初の百条委員会にまで及んだことから、以来、二度と繰り返してはならないことと肝に銘じ対応してきました。

リラ・ポートの指定管理者はその後、２０２２年度からは共同事業体「ONE team（ワンチーム）」が担い、２０２５年には営業開始以来初めて黒字化するなど、経営の安定化にご尽力いただいているところ。

そうした中、今年度末に指定管理期間の５年を迎えることを踏まえ、「リラ・ポート」ならびに隣接する敦賀市グラウンドゴルフ場「リラ・グリーン」の**指定管理者選定委員会は８月２５日、温浴施設運営の「ツルカメO&E」（本社高松市）を候補企業に選定の上、市に答申。**

今定例会では、上記施設の指定管理者を指定する議案が提出され、私は所属する産経建設常任委員会の審査にて、**選定委員会における評価結果を確認した上で、現在の従業員の雇用や地元事業者活用、同社の財務状況は、市が今後定期的な経営・財務報告を受けることで担保する旨の回答を得た**ことから、委員会並びに本会議で賛成しました。



臨時休館中のリラ・ポート（２０２０年２月）。今回の指定管理期間は３年。２０３０年度以降は、施設の無償賃貸方式への移行を予定するも、まずは確実な運営管理を。

活動スナップ


８月２３日＆２６日
ひばりケ丘町会館にて
タウンミーティングを開催


９月１０日＆１０月１５日
敦賀高校にて、同校と市議会が連携して
取り組む模擬請願審査の事前アドバイス


１０月１８日
第３９回美浜町民レガッタに
敦賀市議会チームのメンバーとして出場

各地で発生する自然災害を「対岸の火事」とするなかれ

ちょっと、ひとこと。

８月２７日には富山、石川の両県で、同３０日には福井県嶺北地方で記録的な大雨となり、気象庁は「レベル５大雨特別警報」を発表。広範囲に緊急安全確保が出されるなど大きな被害が発生したことは記憶に新しいところ。

“線状降水帯が少しズレていたら敦賀でも…”と危機感を高めましたが、その後、１０月１５日には、嶺南広域行政組合議会の行政視察にて、平成２７（2015）年の関東・東北豪雨に伴う鬼怒川堤防決壊水害により甚大な被害を受け、現在はその教訓を生かして「防災先進都市」を目指す茨城県常総市にて、行政と市民、関係機関が一体となって、あらゆる施策に取り組んでいることを学びました。

また１１月１３日には、所属する団体の視察研修にて能登へ。のとじま水族館での震災学習、のと鉄道「震災語り部観光列車」（七尾駅～穴水駅）では、“語り部”のお話により、令和６年能登半島地震発生時の“リアル”と復興道半ばであることを実感しました。

敦賀市においては、防災資機材の拡充や先般実施された市総合防災訓練をはじめ、様々な取り組みを進めるところでありますが、こうして各地で発生する自然災害を「自分ごと」として捉え、市民の皆様におかれましては引き続き、“災害に備えるまちづくり”に向けご協力賜りますようお願いいたします。



七尾市の施設にあった掲示。
皆んなで支えよう能登半島！



発行・編集責任者／山本 武志